

浜松交響楽団

Hamamatsu Symphony Orchestra

第89回
定期
演奏会

1770年12月、ドイツ中西部ボンで生まれ、数々の名曲を世に残したベートーヴェン。生誕250周年にあたる今回は、彼の作品のなかでも特に人気の高い、交響曲第7番を演奏します。また、浜松市出身・在住の気鋭のピアニスト、今西泰彦さんを迎え、難曲中の難曲といわれる、ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番に挑戦します。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

プログラム

ラロ／
歌劇「イスの王様」序曲

フランスの伝説を基にしたオペラの、壮大で美しい序曲。ロマンチックなチェロの旋律が魅力的な、隠れた名曲です。

ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲第3番
二短調 作品30

20世紀屈指のピアニストでもあったラフマニノフが生み出した、ドラマチックな協奏曲。ソリストの高い技巧と表現力が存分に発揮される作品です。

ベートーヴェン／
交響曲第7番
イ長調 作品92

ワーグナーが「舞踏の神化」と称揚した、ダイナミックで生命力に溢れたリズムが心弾む傑作。国内でも人気が高く、テレビドラマの主題曲としても馴染みです。



指揮／海老原 光 *Hikaru Ebihara*

鹿児島生まれ。鹿児島ラ・サール中学校・高等学校、東京芸術大学を卒業、同大学院修了。その後、ハンガリー国立歌劇場にて研鑽を積む。指揮を小林研一郎、高階正光、コヴァーチ・ヤーノシュの各氏に師事。2007年口プロ・フォン・マタチチ国際指揮者コンクールで第3位、2009年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで第6位入賞。2010年アントニオ・ベドロッチ国際指揮者コンクールでは審査員特別賞を受賞。これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、群馬交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団、九州交響楽団、ほかを指揮し、客演を重ねる。2011年より毎年霧島国際音楽祭に登場している。また、2012年に続き、2015年に再びクロアチア放送交響楽団の定期公演（ザグレブ）、また2019年にはゲデレー交響楽団（ハンガリー）に客演し、好評を博した。

ピアノ／今西 泰彦 *Yasuhiko Imanishi*

静岡県浜松市出身。静岡県立浜松北高等学校卒業、東京芸術大学、並びに東京芸術大学大学院器楽科ピアノ専攻修了。渡欧後、イタリア・イモラ国際ピアノアカデミー、パリ、またミュンヘン国立音楽・演劇大学古楽科に於いては古楽奏法の研鑽を積み、伝道者として故郷へ。これまでに、イタリア・テレビ局メディアセットによる中継、ラジオ出演、各新聞紙上、また国内のテレビ番組、フジテレビ系「TEPPEN」、NHK「純情きらり」、フジテレビ系「HERO THE TV」に出演。また、映画「四月は君の嘘」(2015)、TBS系「ごめん、愛してる」(2017)では撮影協力を行っている。2018年には母校・浜松市立菟丘小学校へ向けて自身が作詞作曲を手掛けた「大好きなキミへ～永遠の煌めきを胸に～」を寄贈。東京・青山スパイラル・ホールではベートーヴェンの第5交響曲を1台ピアノにて演奏し、コンテンポラリー・ダンス界とのコラボレーションを果たす。2019年にはピアノ協奏曲を弾き振りにて、また同年から翌年にかけてベートーヴェンのピアノソナタ全曲演奏会を完結させた。育成の分野に於いても、2018年より「超プライベートレッスン」と題し、浜松を中心に全国各地にて順次開講中。



— 浜松交響楽団 プロフィール —

「楽器のまちから音楽のまちへ」との願いをこめて1976年(社)浜松青年会議所により設立。1978年に財団法人となり、2012年4月より公益財団法人へ移行。現在団員数120名。

秋と春の年2回の定期演奏会、小学校や中学校でのオーケストラ教室など、地域に根ざした活動が続いている。2000年度サントリー地域文化賞、静岡県知事賞、NHKあけぼの賞、2006年第59回中日文化賞を受賞。

次回公演

2021年3月21日(日)
第90回定期演奏会～創立45周年記念～
アクトシティ浜松 大ホール
指揮:北原 幸男 ソプラノ:森谷 真理 バリトン:青山 貴